

地域農業の新たな担い手に

山梨県農業
振興公社

24年度7人が研修修了

【山梨】(公財)山梨県農業振興公社は4月24日、甲府市の県防災新館で、就農希望者が長期にわたって熟練指導者から指導を受ける「やまなしあぐりゼミナール研修」の修了式を行った。

研修は、農家数の減少や農業従事者の高齢化など多くの課題に対し、産地を次世代に引き継ぐためには新規就農者の確保と育成が重要という観点から、2020年から実施。研修指導者は県が認定した熟練指導者のアグリマスターが務め、栽培技術の習得をはじめ、地域住民との人間関係の構築まで手厚くサポートする。これまでに50人の研修生が新規就農者として巣立っている。

24年度の修了式には、研修生男女7人と指導を担当したアグリマスターらが出席した。今後、県内各地で就農を予定している。研修生の一人は「アグ



リマスターから学んだ技術はもちろん、近隣の人々との交流を深め、地域の農業の担い手として活躍したい」と今後について目を輝かせながら抱負を語った。

また、アグリマスターからも、研修生の今後の農業経営についてエールが送られた。

24年度は男女7人が研修を修了した

全国農業

新聞

NATIONAL AGRICULTURAL NEWS

2025年(令和7年)

5月16日 金曜日
月4回金曜日発行

地方総合

全国農業



2025年(令和7年)

5月23日

金曜日
月4回金曜日発行

首都圏

ヨモギ 化粧品や食品の原料に好評

北杜市の「ぐーももファーム」 生産・販路拡大に意欲



ヨモギ畑で井戸農場長

いるのがヨモギの栽培とその活用。白州町の天然水で育ったヨモギは他地区で栽培されたものと比較すると柔らかく、色や香りが強いのが特徴だ。収穫したヨモギは化粧品や医薬部外品の原料やヨモギまんじゅうなどの加工品に使用され、好評を博している。今後はさまざまな用途に使用できるように調整中だという。

このほかにもヨモギを使用したジェノベーゼピザやヨモギのコンフィーなどは、通販サイト「ぐーもも倶楽部」や同市のふるさと納税返礼品に登録され、同市からも期待されている事業だ。

井戸さんは「今後は白州がヨモギの産地と認知されるよう、品質の高いヨモギの安定生産や販路拡大をしていきたい」と力強く語った。



白州よもぎ

「白州よもぎ」のロゴ

【山梨】特定非営利活動法人・山梨ICT&コネクタクト支援センターが手がける北杜市白州町の癒やしの農園「ぐーもも



GOOMOMOFARM

ファーム(井戸隆一農場長)。自然豊かな白州町での農業体験を通じたリフレッシュを目的として訪問する観光客を増加させ、地域を活性化しようとする2014年に設立された。無農薬の野菜栽培を主に行っている同農園で、新たに元コード力を入れて

NATIONAL AGRICULTURAL NEWS
新聞
全国農業

2025年(令和7年)

5月30日 金曜日
月4回金曜日発行



農作業事故防止へ
山梨で安全研修会

【山梨】県内では、昨年度に農作業中の死亡事故が5件発生(県農業技術課調べ)している。

こうした事故を未然に防ぐため、モモやブドウなどの農作業が最盛期と

なる前の5月13日、県と農業団体、農機などを扱う企業が共催し、北杜市で農作業安全研修会を開いた。写真。

研修会では、刈払機や昇降機を操作する時のヒヤリハットの事例、近年の気温上昇に伴う熱中症対策の重要性が説明された。研修会には県内農家など約80人が参加し、参加者からは「自分は大丈夫と思わず、常に安全に配慮してこれから作業をしていきたい」との声が聞かれた。

研修は農作業安全への意識向上を目的として、毎年継続して実施している。